
恋の付き物にご注意を！～恋付2nd～

餅亜実

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋の付き物にご注意を！〜恋付2nd〜

【Nコード】

N5086S

【作者名】

餅亜実

【あらすじ】

零羅の誤解が解けて、柚波の過去が明らかになったあの日からもう約3ヶ月が経った。新学期、新しいクラス。そして新しい友達。過去から抜け出した柚波と零羅たちの前に新たな事件発生？！

今度は柚波の取り合い？紅葉と静冶の別れの危機？！シリーズではあまりなかった喧嘩や恋愛事情で事件勃発。「恋付」2ndシリーズ！

1話 「序章にすぎない。」（前書き）

久々に・・・て、どんだけ久々や。

もう、忘れてられていたと思います。

餅壱実です。久々すぎるけど、更新します。

時間があるときに更新する程度なので、

あまりはやくはないです。というかめっちゃまったりです。

それでよければ、読んでください。

1話 「序章にすぎない。」

「彫津名さん、遅れるよ・・・。」

玄関から小さな呟きが聞こえてきた。

「ちょ、先に行つててください!」

私はそう叫んで2階へ走る。

今日から新学期。

なのに早々に忘れ物なんて最悪すぎる。

「おねーちゃん、先いくよー!」

弟が幼稚園、小学校に登校する時間。

私は部屋で探し物をしていた。

「・・・、あ、あつた!」

古い写真。

それは「命の恩人」の宝物だった1枚の写真だった。

「い、いめんなさい!」

私は慌てて家を出る。

私は家の鍵を閉める。

いつもなら最後に家を出る弟の雅と啓兔が閉めるのだけれど

私が最後ならば私が閉めるしかない。

「彫津名さん、はよ。」

遅刻しそうなのに私に優しく微笑んでくれる可愛げな少年。

「魅鎧 零羅」くん。

そして零羅くんは私の・・・彼氏なのだ。

「うん、おはよ。あ、遅刻する！」

どさくさにまぎれて零羅くんは私の手を掴む。

「走って！じゃないとホントに間に合わない！」

私は零羅くんと手を繋いだまま学校に走った。

「はよー・・・」

チャイムギリギリで学校にたどり着いた。

「よう、柚波い零羅を遅刻させるなよ！」

大声を張り上げて私に声をかけてきたアホ面の男子。

「夜代伊 静治」。

私の幼馴染でもあり・・・一応従兄妹だ。

昔からの付き合いでもう静治の馬鹿さには慣れた。

ついでに言つと結構モテる。

そんなに格好いいとは思わないけどなあ・・・

「俺ら、同じクラスだったぞ！」

「俺ら・・・って彫津名さんも？」

「ああ！よかつたなあ・・・零羅？」

そういつて卑しい目で零羅くんを見る静治。

「・・・ちよつとだまって。」

私が睨むと静治はおとなしく引き下がった。

「・・・とりあえず教室行こうぜ。」

私達は静治と一緒に教室へ向かった。

教室のドアを開けると・・・何故か痛い。

クラスの女子の視線が痛い。

「・・・またあの子、静治くんたちと来たよ。」

「なんであんな子が一緒に居るのよ・・・」

陰口・・・のつもりだろうけど全部聞こえてる。

それにこれくらいじゃ別にどうとも思わない。

前ももっと酷い仕打ちにあったから。

女子には虐げられ、男には犯されそうになる。

・・・私の人生には必ずイケメンの男子がいて

その人たちのお陰で心身ともに強くなっている、気がする。

うーん、嬉しいのやら悲しいのやら・・・

私は開き直って堂々と席に座る。

隣に座っていた男子が私を見て少し顔を赤らめた。

「・・・?」

私は何がそんなに恥ずかしいのかわからず、とりあえずその男子に微笑む。

そして席を立ち、零羅くんの元へ寄った。

「彫津名さんは今日予定とかある？」

突然、零羅くんから意外な言葉を聞かされる。

「え・・・ない、ハズ。」

「なら何処が行かない・・・？」

・・・え？

「え、今なんて・・・？」

「今日、空いてたら・・・何処かいかない？」

零羅くんが顔を赤らめながら私を見る。

「・・・い、いく！空いてるよ！！」

「じゃあ、放課後・・・校門で待ってて？」

「うんっ」

私は勢いよくうなづくとき零羅くんは嬉しそうに笑って自分の席に戻った。

「……………」

隣の席の男子が今さっきとは違う顔つきで零羅くんを睨む。

私はそれに気づいてはいなかった。

私の人生にまた、波乱がおこる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5086s/>

恋の付き物にご注意を！～恋付2nd～

2011年10月7日03時51分発行